

庵原地区 道の駅社会実験報告会&講演会

日時 令和5年5月27日(土) 15時半~17時

場所 清水ナショナルトレーニングセンター(J-STEP) 地下1階大会議室

# 地域振興と道の駅

## I-道の駅の概要

- 1.道の駅とは
- 2.道の駅の経過
- 3.道の駅の目的と機能
- 4.道の駅の施設配置
- 5.道の駅の設置者、登録
- 6.道の駅の整備
- 7.道の駅の管理・運営手法

## II-道の駅 第3ステージ

## III-地域振興と道の駅

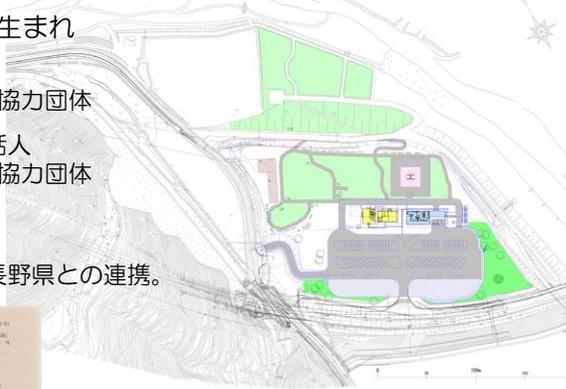
## IV-意見交換



# 庵原地区 道の駅社会実験報告会 & 講演会 「地域振興と道の駅」 自己紹介

石井孝二 長野県上田市在住 1960年生まれ

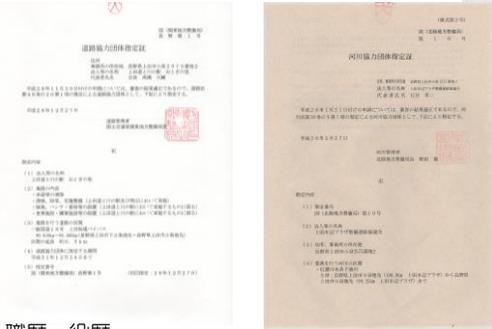
- 上田水辺プラザ整備連絡協議会 顧問  
国土交通省北陸地方整備局指定 河川協力団体
- 上田 道と川の駅 おとぎの里 代表世話人  
国土交通省関東地方整備局指定 道路協力団体  
長野県警本部認定 青パト団体
- 信州道の駅交流会 事務局長  
長野県全52道の駅加盟による団体。長野県との連携。



上田 道と川の駅

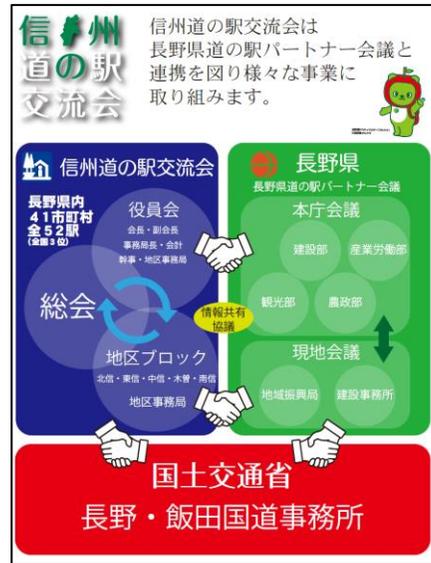


ドラム講師



## 職歴・役歴

- 上田市将来構想検討委員会 委員
- 上田市TMO検討委員会 委員
- 上田市百勇士委員会 委員
- 上田市PFI検討委員会 委員
- 上田市地域協議会 会員
- 長野県東信地区砕石協同組合 理事長
- 長野県上小砂利組合 理事長
- 長野県上小火薬類保安協会 会長
- 長野県砂利砕石組合 理事
- 長野県ダンプカー協会 理事
- 長野県上小ダンプカー協会 会長
- 採石業務主任者 長野県講師
- 砂利採取業務主任者 長野県講師
- 上田市ストリートパフォーマンス協議会 会長
- 上田市立南小学校 PTA会長
- 上田市学校評議委員/現役
- 千曲川流域学会 理事
- 上小漁業協同組合 2区総代長
- 上小漁業協同組合 総代
- 伝統漁法継承・築漁「半過やな」経営
- ライブハウスloft. 代表
- 坂城ゴルフ練習場 代表
- (株)イワバナ 代表取締役 (建設骨材の生産販売)
- 天神BREWERY 世話人/現役



長野県パーツ会議



天神BREWERY



地域PR・特産品紹介出展



砂利・砕石工場



松茸山



半過築(やな)



草刈機  
と  
芝刈機



9

庵原地区 道の駅社会実験報告会 & 講演会 「地域振興と道の駅」 I - 道の駅 概要

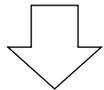
1.道の駅とは

地域の創意工夫により道路利用者に快適な休憩と多様で質の高いサービスを提供する施設。  
 「地域とともにつくる、個性豊かなにぎわいの場」 → 地域振興の拠点

2.道の駅の経過

道の駅誕生の背景

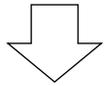
長距離ドライブが増え、女性や高齢者のドライバーが増加



道路交通の円滑な「ながれ」を支えるため

一般道路にも、安心して自由に立ち寄り利用できる快適な休憩のための「たまり」空間が求められる  
 休憩施設では  
 沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用し多様で個性豊かなサービスを提供ができる

個性豊かなにぎわいのある空間となることにより  
 地域の核として、活力ある地域づくり、道を介した地域連携の促進に期待…



道路利用者のための「休憩機能」  
 道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」  
 「道の駅」をきっかけに、町と町とで活力ある地域づくりを共に行う「地域の連携機能」

平成3年(1991年) 道の駅実験(山口、岐阜、栃木県)



平成5年(1993年)4月 道の駅登録 全国で103箇所 3つの機能を併せ持つ休憩施設「道の駅」が誕生

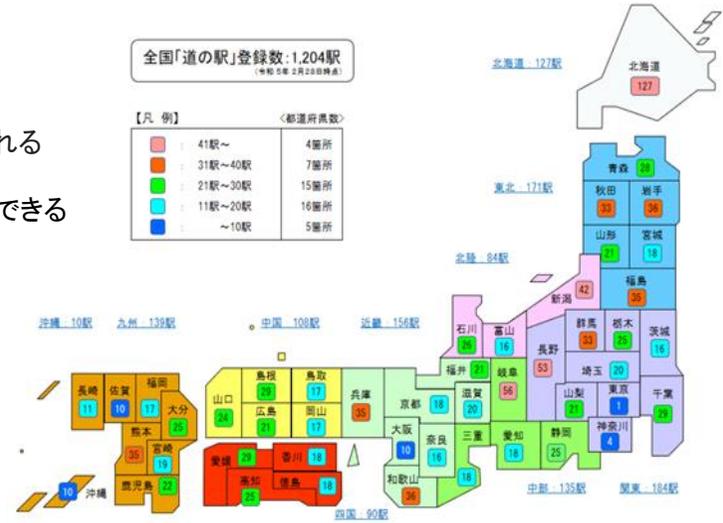


令和5年2月末時点 1,204箇所 (静岡県25駅/令和5年1月末時点)

令和5年 30周年

上田 道と川の駅

平成10年登録  
 平成22年一部供用開始  
 平成25年食堂オープン  
 令和4年現在 未完成



## 庵原地区 道の駅社会実験報告会 & 講演会 「地域振興と道の駅」 I - 道の駅 概要

### 3.道の駅の目的と機能

#### ■目的

- 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- 地域の振興に寄与

#### ■3つの機能

※災害時の防災機能も併せ持つ

##### 休憩機能

24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ

##### 情報発信機能

道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等を提供

##### 地域の連携機能

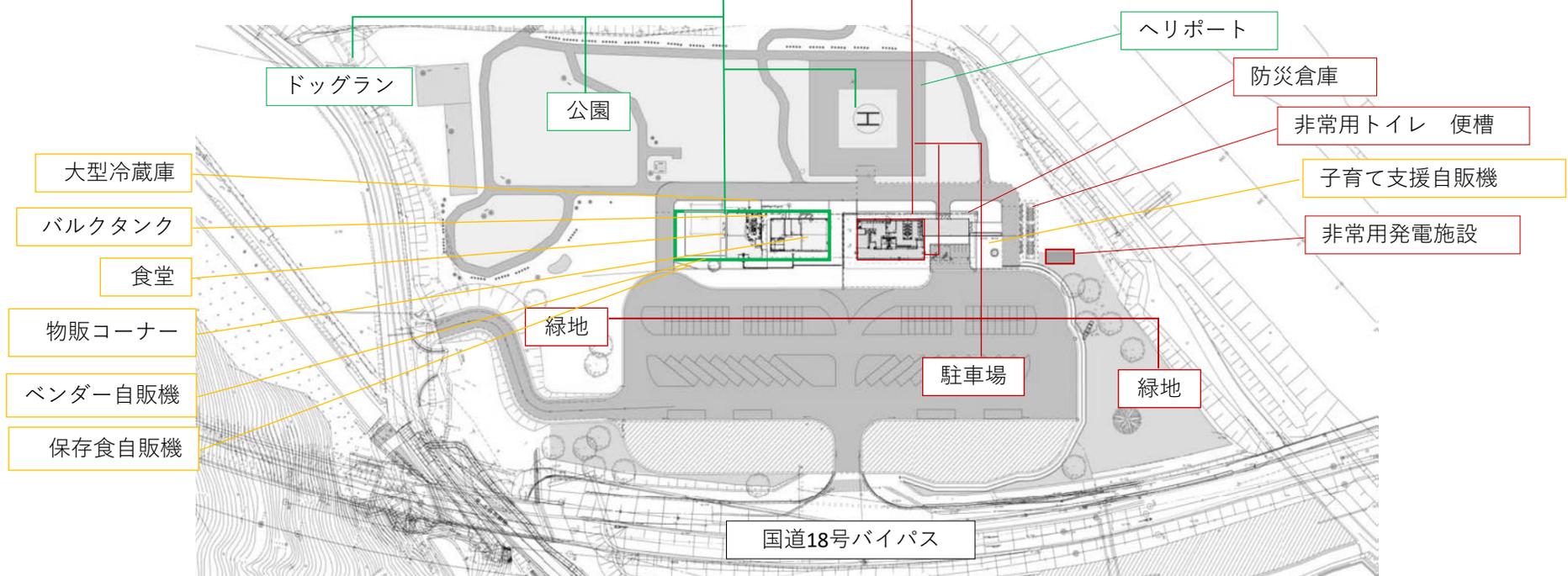
文化教養施設、観光レクリエーション施設等の地域振興施設

### 4.道の駅の施設配置

例:上田 道と川の駅(一体型)

地域振興施設 (観光、文化教養、レクリエーション施設等)  
市町村等で整備

駐車場 トイレ 情報発信施設 休憩施設  
道路管理者 又は 市町村等で整備



庵原地区 道の駅社会実験報告会 & 講演会 「地域振興と道の駅」 I - 道の駅 概要

5.道の駅の設置者、登録

■道の駅は、市町村又はそれに代わり得る公的な団体※が設置

■登録

市町村長からの登録申請により、国土交通省で登録

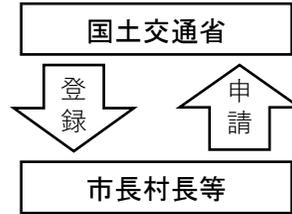
■整備の方法は2種類

道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」

市町村で全て整備を行う「単独型」

令和5年2月末 全国1,204駅

一体型 656駅(54%) 単独型 548駅(46%)



道の駅の登録要件

**休憩機能** 利用者が無料で24時間利用できる  
 ・十分な容量を持った駐車場 ・清潔なトイレ(原則、洋式) ・子育て応援施設(ベビーコーナー等)

**情報発信機能**

道路及び地域に関する情報を提供(道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等)

**地域連携機能**

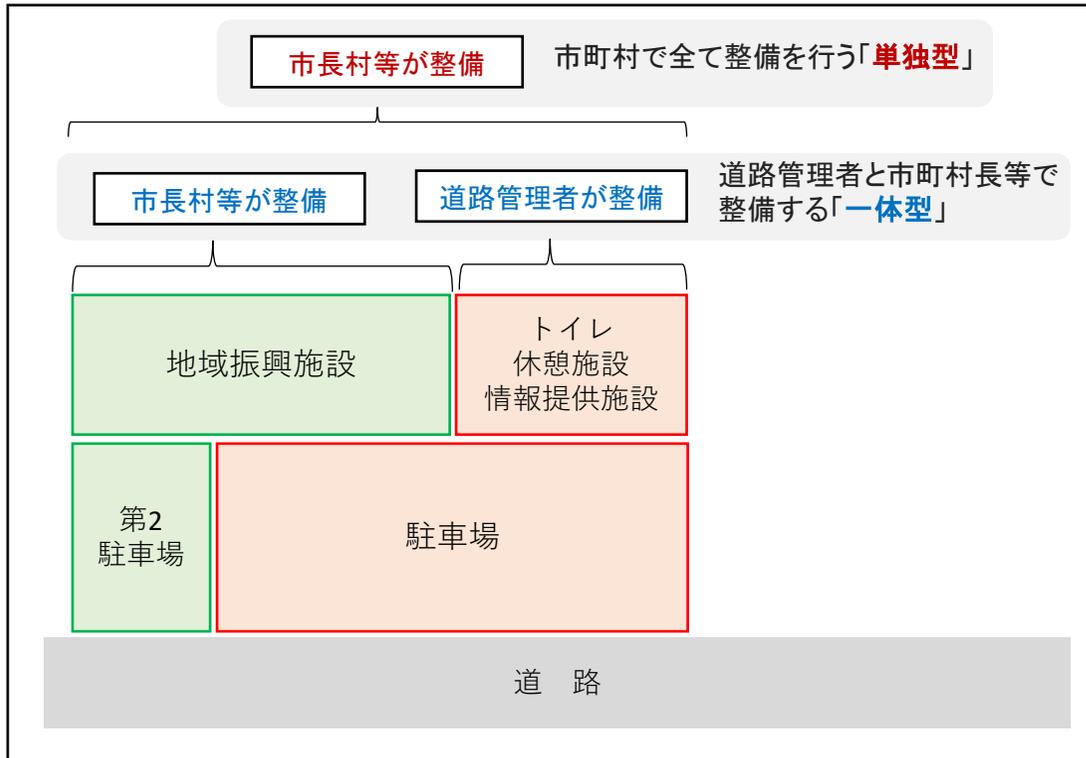
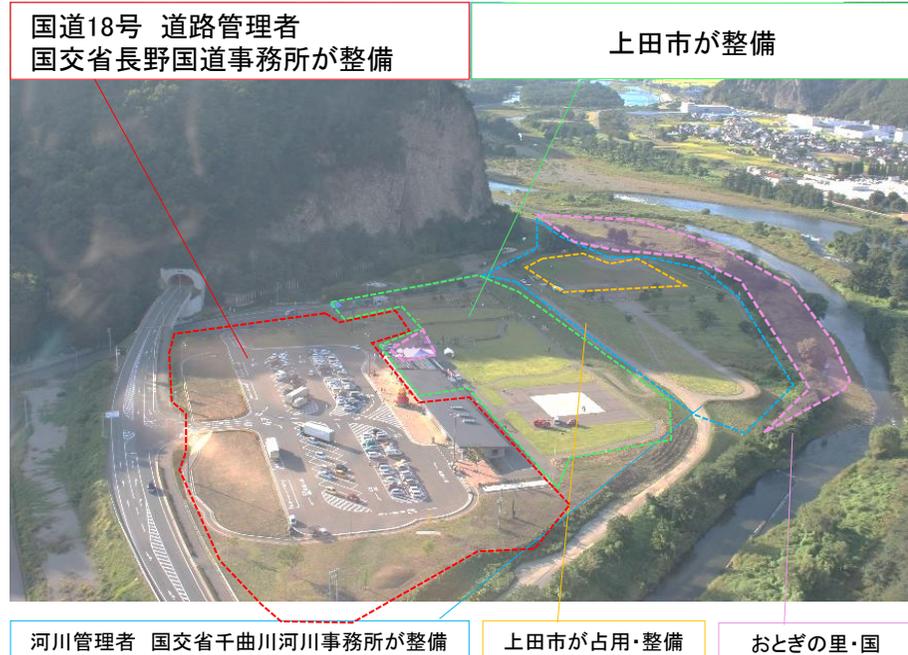
文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

**その他** 施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化

**設置者** 市町村又は市町村に代わり得る公的な団体

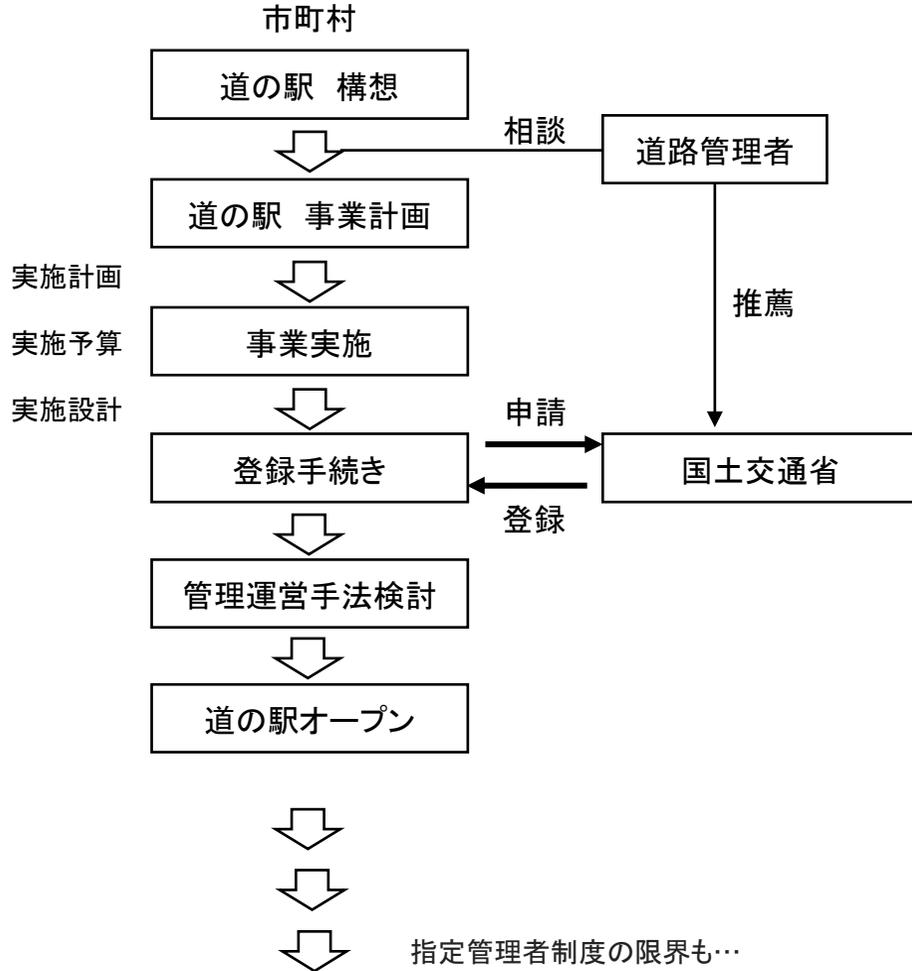
※都道府県、地方公共団体が三分の一以上を出資する法人、市町村が推薦する公益法人、または、市町村から土地・建物の貸与を受け、市町村と管理運営についての協定を締結する法人

「一体型」整備の例 (上田 道と川の駅)



庵原地区 道の駅社会実験報告会 & 講演会 「地域振興と道の駅」 I - 道の駅 概要

6.道の駅の整備



7.道の駅の管理・運営手法

■市町村が整備する地域振興施設の管理運営

- ①市町村が運営管理する「公設公営」方式
- ②市町村で施設を整備し民間が管理運営する「公設民営」方式
- ③民間が施設を整備し管理運営を行う「民設民営」方式

■公設民営方式→指定管理者制度等により管理運営

整備・管理運営手法	概要	メリット	デメリット	評価
公設公営 市直営	<ul style="list-style-type: none"> <li>市において直接管理運営を行う方法</li> <li>トイレの維持管理や販売施設・飲食施設の運営等、施設ごとに業務委託またはテナント方式をとる場合が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共目的が直接反映できる</li> <li>行政施策との連動が図りやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収益施設の運営ノウハウが少ないため、収益性が求められる「道の駅」の総合的な管理運営が困難となる場合がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政の目的に沿った長期的な視点で管理運営を行いやすく、行政の責任が明確で継続性が高い</li> <li>しかし、行政が公的な立場から判断するため、利用者・地域ニーズへの対応の遅れや、大胆な取り組みがしづらい可能性がある。また、コストが割高となるおそれがある</li> </ul>
公設民営 指定管理(第3セクター・民間事業者等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政が施設を整備し、管理運営を民間に複数年契約で委ねる方式</li> <li>指定管理者が独立採算で事業を行う場合と、行政が委託料を支払う場合がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共目的が直接反映できる</li> <li>民間企業が有するノウハウを活かして、効果的・効率的な施設運営が期待できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備は市、管理運営は指定管理者となるため、設計・施工・運営・維持管理までの一貫性は担保できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間ノウハウを活かし、常に化する利用者や地域ニーズに柔軟に対応でき、サービスの質向上やコスト縮減がしやすい</li> <li>収益事業として展開する部分の魅力づくりを継続的に展開していくためには、民間経営の感覚や視点が必要であると考えられる</li> </ul>
民設民営 民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政が一定の関与をしつつ、施設の整備・管理運営を民間主体に委ねるもので、PFI方式が最も代表的な形態となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計・施工・運営・維持管理まで一貫して同じ民間企業が行うため、整備・経営方針にぶれがなく、事業全体の効率性が向上する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PFI事業者の利益が優先され、「道の駅」が持つべき公益性が軽視される懸念がある</li> <li>PFI導入可能性調査・事業者選定作業に2年以上を要し、調査費用・市職員の作業負担が重い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の財政負担が平準化でき、経費削減効果も見込まれる</li> <li>事業期間中、設計・施工を行った事業者が収益性重視の管理・運営を行うことになるため、公益性が発揮されにくい</li> </ul>

※民間事業者は、公設民営の場合には行政から指定を受けて施設の管理運営を行い、民設民営の場合には施設の整備及び管理運営を行う。

庵原地区 道の駅社会実験報告会 & 講演会 「地域振興と道の駅」 II - 道の駅 第3ステージへ

■道の駅 第3ステージの概要

**第1ステージ** 平成5年(1993年)～  
**通過する道路利用者のサービス提供の場**  
 ～道路利用者が安心して休憩できる場を提供～

**第2ステージ** 平成25年(2013年)～  
**道の駅自体が目的地**  
 ～地域の創意工夫により、道の駅自体が観光の目的地や地域の拠点に発展～



**第3ステージ** 令和2年(2020年)～  
**地方創生・観光を加速する拠点** ～地方創生・観光を加速する 地域の中心的な拠点として機能～  
 ～「道の駅」同士等の連携により、新たな地域づくりに貢献～

1. 「道の駅」を世界ブランドへ

<主な取り組み>

- 海外プロモーションの強化
- 外国人観光案内所の認定取得やキャッシュレスの導入
- 風景街道等と連携した観光周遊ルートの設定
- 観光MaaS(アプリで交通と観光施設を案内) MaaS… Mobility as a Service

観光MaaSとは、移動手段としての飛行機や目的地の宿泊先が1つになったパッケージ旅行商品を、デジタルを用いてオンデマンドでリアルタイムに提供できるサービス・仕組み

2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に

<主な取り組み>

- 広域的な防災拠点となる「防災道の駅」認定制度の導入と重点支援
- 地域防災力の強化のためのBCP策定や防災訓練等の実施

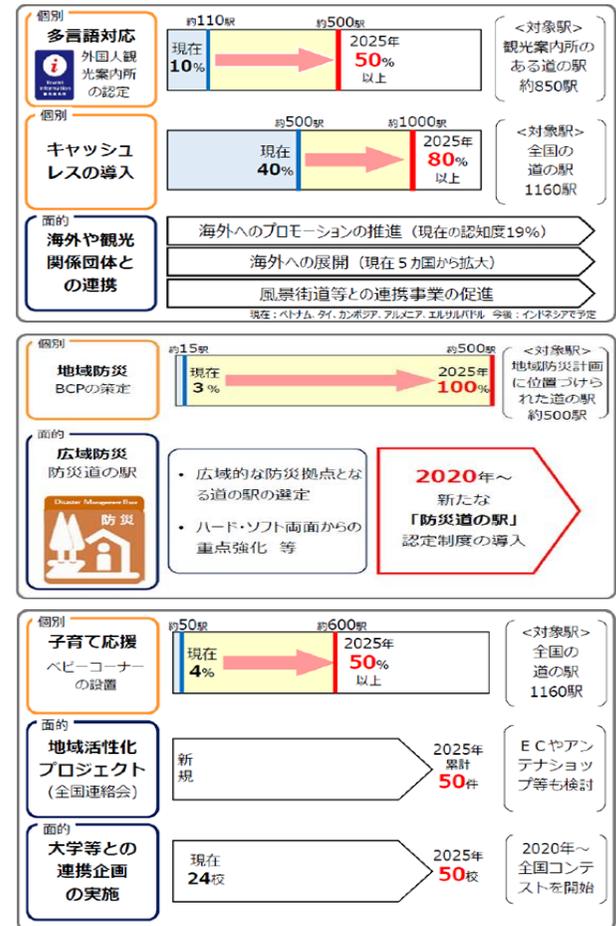
企業等が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと

BCP=事業継続計画(Business Continuity Plan) Continuity(コンティニューイティ)=連続

3. あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに

<主な取り組み>

- 子育て応援施設の併設
- 自動運転サービスのターミナル
- 大学等との連携によるインターンシップや実習(商品開発等)



庵原地区 道の駅社会実験報告会 & 講演会 「地域振興と道の駅」 III - 地域振興と道の駅

平成5年(1993年)に「道の駅」登録・案内制度が創設されて約30年 道路の休憩施設としての機能を中心に全国103カ所でスタート  
令和5年2月末、1204箇所(10倍以上) 年間数億人が訪れる人気の施設に発展

制度発足から20年目、全国で1000駅の大台に、道の駅「第2ステージ」

制度創設当初に定められた「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」の3つの機能に加え  
「地域防災」「地域福祉」など地域の課題解決の拠点、観光推進など地方創生の拠点としての位置付も…



多様な可能性、過疎化・高齢化対応 公益的機能の充実と更なる発展に期待  
道の駅は平均的な公共施設のサービスの提供ではなく「独自の地域色」が求められている  
地元住民の創意工夫によって支えられる「自由度の高い制度であることが特徴」  
地域への愛着、地域を愛する地域の人たちによる発想や活動が重要  
地域振興拠点としてさらに発展するために、道の駅の原点に立ち返ることも大切



これから道の駅つくるにも既設の道の駅が進化するにしても、道の駅のミッションは「公共性と公益性」  
市町村を、県を、国を よくするための地域の活性化に寄与する重要な拠点 地域課題への支援や協働  
防災・医療・福祉・住民サービスなど公的機能の充実に期待 移住定住促進、少子高齢化、後継者、農業活性・後継者、地域交通…



「道の駅第3ステージ」2025年に目指す3つの姿…  
①「道の駅」を世界ブランドへ ②新「防災道の駅」が全国の安心拠点に ③あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センター

## 庵原地区 道の駅社会実験報告会 & 講演会 「地域振興と道の駅」 III - 地域振興と道の駅

### 本日のまとめ

本日の報告会 & 講演会のテーマ「道の駅整備を通じて庵原を一層活力のあるまちにしたい」  
その視点として「**運営者**」「**機能**」「**施設規模**」「**取扱品目**」「**地域、行政とのかかわり**」について

### ■運営者

地域への愛着を持つ市民の集合体 …市民とは

7か条…**構想 夢 ビジョン 技術力 行動力 誠意 継続の意思**

長期構想を作り自分たちの活動の指針に(自治体の将来構想とのマッチング)

あらゆる世代、地域内外交流、女性の力

地域の課題を共に解決する

収益事業と公益事業の同時展開 **新たな公共の場づくり**

お勧めする事業スタイル…「**コミュニティービジネス**」

地域住民が主体となり、地域が抱える課題を、地域資源のビジネス的手法をもちいた活用による解決をめざし、  
コミュニティーの再生を通じて得た利益を地域に還元する」とし、地域間・世代間交流、大学や行政、地域団体との  
連携と協働を推進し、地域性・社会性 + 事業性・自立性を併せ持つ地域事業

	○	△	×
地域の…	志事	仕事	私事
地域で…	朗働	労働	盗働
地域の…	人財	人材	人災

### ■機能

道の駅の目的に合致した機能 **3つの機能+地域の課題解決のための機能**

認可者、道路管理者、自治体との目的の共有と、目的達成のための機能

### ■施設規模

道路管理者、自治体と規模設定

持続可能か (維持管理・運営等)



### ■取扱品目

自分で価格を決める、自分で売る、自分が喜ばれる(たまには怒られる)もの  
地域の特色・特産品

### ■地域、行政とのかかわり

立場の違いを理解し合い、まちづくりの目的を共有し共に活動



基本となるこれらの考え方や活動は、決して新しいものでも特別な発想や仕組みでもありません。

地域と住民が主体となって“まちづくり”を進めるといった観点においては、旧来日本のどこにでもあった村の姿と似ています。

「地域力の向上」 豊かな地域づくりのおもいを共有する地域の“じんざい(人財)”の一人一人の価値が活きる“しごと(志事)”によって、共に“はたらく(朗働)” 地域事業を展開し地域力の向上をめざします。

基本構想  
(概ね10年毎見直し)

理念

持続可能な豊かな地域の創造

第4期 長期構想  
策定/2017年度  
施行/2018年度  
自 2018年度～至 2027年度

基本方針

1. 地域が抱える課題を、地域資源のビジネス的手法をもちいた活用により解決し、コミュニティの再生を通じて得た利益を地域に還元する。
2. 様々な機関・団体との連携と協働を推進し、「地域性・社会性」※-1と「事業性・自立性」※-2を併せ持つ地域事業の展開。
3. 「収益事業」とそれに支えられる「公益事業」を展開する「新たな公共の場づくり」

※-1ボランティアに代表される性質 ※-2企業に代表される性質

前期テーマ  
「地域力の向上」

基本方針を推進するためのキーワード

【連携・協働、交流】 環境・福祉・教育 分野を、行政・地域(自治会、地域団体等)・大学・企業等との連携により、地域住民主体の活動をします。

【愛着・情熱】 地域への愛着と地域づくりへの情熱をもって地域事業を推進します。

【維持・継承】 まもり遺すべき地域資源や新たに創造する地域資源と、その資源を活かし実施する事業成果を、将来に誇れるものとして維持・継承します。

【創造・発信】 活動する全ての人々が「自己実現」を目指します。地域の事務局的機能を担い、上田道と川の駅を地域の魅力の創造と発信の拠点として機能させます。

主要  
プログラム

学びあい、ともに育つ  
地域づくり

ともに築く、安全・安心な  
地域づくり

ともにはたらし、ささえ合う  
地域づくり

ともに創造する、  
魅力ある地域づくり

教育事業

- 研究・発表事業
- 環境教育事業(体験学習)
- 地域の図鑑づくり事業
- 知的ブランディング事業
- 組織内学習事業
- 施設拡充と利用者増進

文化・スポーツ振興事業

- 文化振興事業
- 伝統・継承事業
- スポーツ振興事業
- 施設拡充と利用者増進

健康増進  
福祉向上事業

- 健康づくり応援事業
- わんニャン応援事業
- 施設拡充と利用者増進

防災・安全事業

- リスクコミュニケーション醸成事業
- 安全啓発事業
- 安全パトロール事業
- 道路モニター事業(国交省委嘱)
- 緊急対応
- 施設拡充と利用者増進

農・商・工  
産業振興事業

- 構成団体(収益事業)応援事業
- 施設拡充と利用者増進

地域の事務局事業

- 上田市指定管理事業
- 信州道の駅交流会 事務局
- 国交省認定事業(河川協力団体)
- 国交省認定事業(道路協力団体)
- 県認定業務(青バト)
- 地域団体振興事業
- 福祉施設連携事業
- 地域間交流事業
- 地域のあれこれなんでも応援事業
- 組織事務局
- 施設拡充と利用者増進

交流促進事業

- レジャー応援事業
- しあわせ応援事業
- わんぱく応援事業
- 施設拡充と利用者増進

観光振興事業

- 地域の観光資源の再発見と創造事業
- 情報の受発信事業
- 体験・交流・ふれあい事業
- 施設拡充と利用者増進

環境整備事業

- 施設維持管理事業
- 地域の魅力アップ整備
- 施設拡充と利用者増進

基本計画  
(概ね5年毎見直し)

主要事業

2022年度 見直し

実施計画

実施事業

(実施計画に基づき、単年度毎の事業計画と予算により実施)

事業は各部会の年度事業として、事業毎の「事業企画書」により実施

- ・平成26年3月 河川協力団体指定 (国交省北陸地方整備局)
- ・平成27年4月 上田市上の施設の指定管理者指定 (上田市)
- ・平成27年4月 道路情報モニター委嘱 (国交省関東地方整備局)
- ・平成28年12月 道路協力団体指定 (国交省関東地方整備局)
- ・平成29年4月 青色回転灯装着自主パトロール団体認定 (長野県警本部)
- ・令和2年11月 信州道の駅交流会 事務局

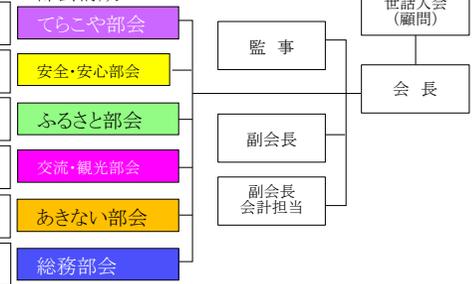
実施事業

各部会の方針

部会構成

実施計画■に基づく当該年度の事業計画	『サイエンスカフェプログラムの展開』環境への興味を誘起し、自然への理解を深めます。『文化振興』スポーツ振興』に努めます。
実施計画■に基づく当該年度の事業計画	『リスクコミュニケーションの醸成』地域の防災・交通安全の推進と健康づくりを応援します。
実施計画■に基づく当該年度の事業計画	『エリアマネジメントシステムの推進』地域住民主体の「魅力あるふるさとづくり」を推進します。
実施計画■に基づく当該年度の事業計画	『地域まるごとおたのしみ』地域で楽しむ様々な交流活動を通じて、地域の観光資源の発見と創造、発信を推進します。
実施計画■に基づく当該年度の事業計画	『今だけ・こだけ・あなただけ』をモットーとして、飲食物販諸サービスを展開し地域の農工商観振興に寄与します。
実施計画■に基づく当該年度の事業計画	『地域事務局の推進』地域の事務局として機能する組織づくりと、その拠点となる施設の管理運営を推進します。

『サイエンスカフェプログラムの展開』環境への興味を誘起し、自然への理解を深めます。『文化振興』スポーツ振興』に努めます。	てらこや部会
『リスクコミュニケーションの醸成』地域の防災・交通安全の推進と健康づくりを応援します。	安全・安心部会
『エリアマネジメントシステムの推進』地域住民主体の「魅力あるふるさとづくり」を推進します。	ふるさと部会
『地域まるごとおたのしみ』地域で楽しむ様々な交流活動を通じて、地域の観光資源の発見と創造、発信を推進します。	交流・観光部会
『今だけ・こだけ・あなただけ』をモットーとして、飲食物販諸サービスを展開し地域の農工商観振興に寄与します。	あきない部会
『地域事務局の推進』地域の事務局として機能する組織づくりと、その拠点となる施設の管理運営を推進します。	総務部会



任意団体 **おとぎの里**  
部会構成と活動概要

おとぎの里の理念・・・「持続可能な豊かな地域の創造」

事業スタイル(方針)・・・「地域住民が主体となり、地域が抱える課題を、地域資源のビジネス的手法をもちいた活用による解決をめざし、コミュニティの再生を通じて得た利益を地域に還元する」とし、地域間・世代間交流、大学や行政、地域団体との連携と協働を推進し、地域性・社会性 + 事業性・自立性を併せ持つ地域事業を展開しています。

### 安全・安心部会

『リスクコミュニケーションの醸成』

関係機関や地域団体と連携し、地域の防災・交通安全の推進と健康づくりの活動をしています。

- 【半過自治会】【上田市消防団第7分団】
- 【上田市防災支援協会】
- 【長野県建設業協会上小支部】
- 【ウォーキングの会】

### ふるさと部会

『エリアマネジメントシステムの推進』

魅力あるふるさとづくりの推進

- 【上田水辺プラザ整備連絡協議会】
- 【上田シニアソフトボールリーグ】【NPO法人 エリスン】【寿宝会(老人会)】
- 【ビバー隊・きこり班】

### てらこや部会

『学び合い、ともに育つ地域づくり』  
サイエンスカフェプログラムの展開  
『文化振興』『スポーツ振興』活動

- 【高橋大輔教授(神戸女学院大学)】
- 【水辺プラザ整備連絡協議会】
- 【新潟水辺の会】【おとぎの里楽団】
- 【伝統工芸の会】

おとぎの里は、活動の内容別に部会を構成し、収益事業とそれに支えられる公益事業を同時展開し「新たな公共の場づくり」を目指しています。

### あきない部会

『地域まるごと おもてなし』

「今だけ・ここだけ・あなただけ」をモットーに、食堂・物販コーナーを運営しています。

- 【株式会社おとぎの里】【おとぎの里協力会】
- 【上田道と川の駅利用組合】
- 【くいやしよー(地域女性チーム)】

### 総務部会

『地域事務局活動』

地域の事務局として機能する組織づくりと、その拠点となる施設の管理運営を推進します。

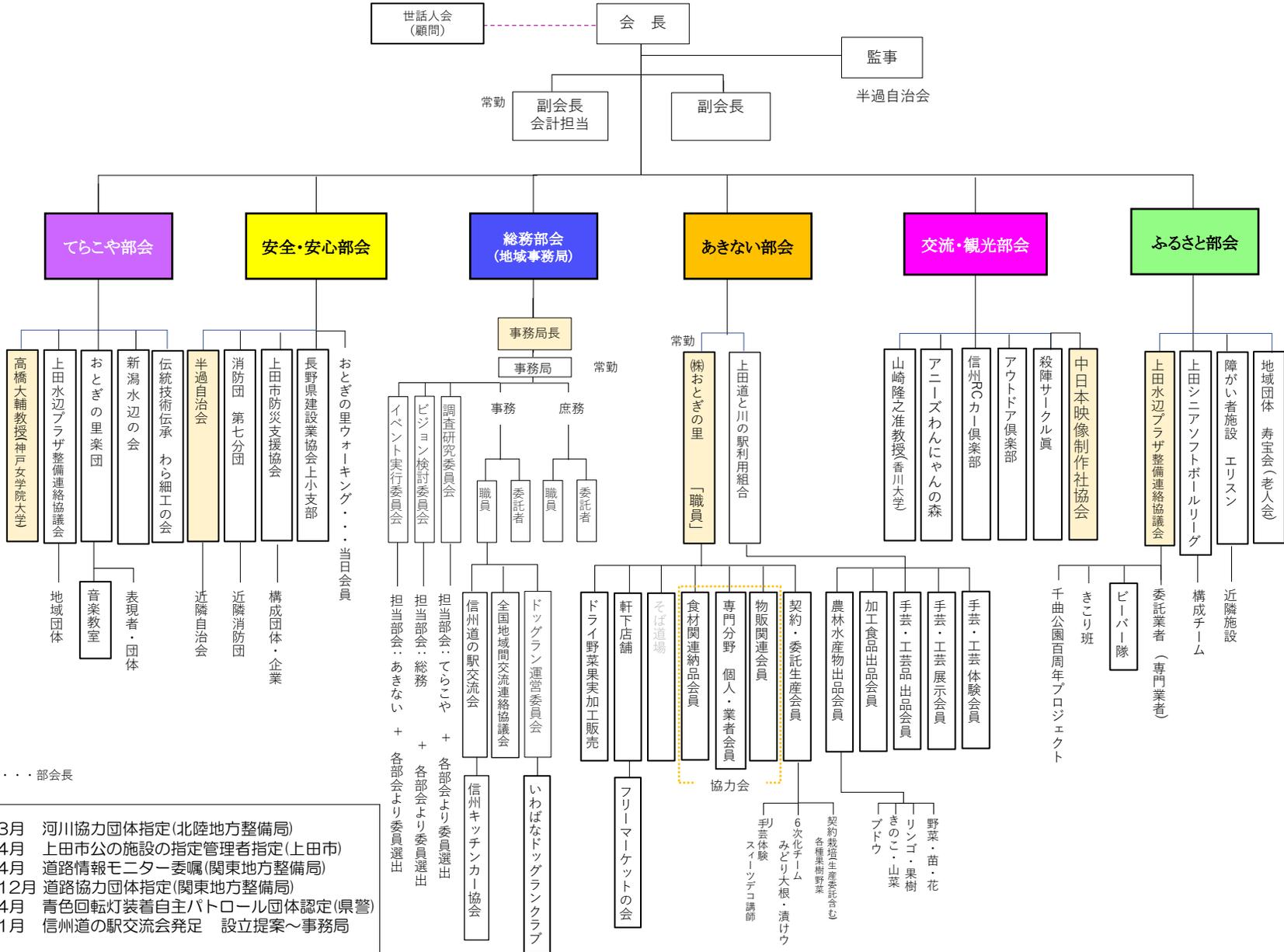
- 【調査研究委員会】【ビジョン検討委員会】
- 【イベント実行委員会】
- 【職員(事務局)】

### 交流・観光部会

『地域まるごと おたのしみ』

地域で楽しむ様々な交流活動を通じて、地域の観光資源の発見と創造、発信を推進します。

- 【アニーズ～わんにゃんの森】
- 【山崎准教授(香川大学)】
- 【信州RCカー倶楽部】【アウトドア倶楽部】
- 【てずくな村】【殺陣サークル真】
- 【中日本映像制作社協会】



... 部会長

- 平成26年3月 河川協力団体指定(北陸地方整備局)
- 平成27年4月 上田市公の施設の指定管理者指定(上田市)
- 平成27年4月 道路情報モニター委嘱(関東地方整備局)
- 平成28年12月 道路協力団体指定(関東地方整備局)
- 平成29年4月 青色回転灯装着自主パトロール団体認定(県警)
- 令和2年11月 信州道の駅交流会発足 設立提案～事務局

庵原地区 道の駅社会実験報告会&講演会

日時 令和5年5月27日(土) 15時半~17時

場所 清水ナショナルトレーニングセンター(J-STEP) 地下1階大会議室

# 地域振興と道の駅

ご清聴ありがとうございました。



信州  
道の駅  
交流会

信州道の駅交流会 事務局長 石井孝二